

議題1 SRTのトータルデザイン (VI、車両、乗降・待合空間)

- ・SRTのデザインが格好良すぎて、何か近寄りがたい雰囲気があるかもしれないので、初めて乗る人の不安をいかに取り除いていくかが重要。
- ・ロードウォッシャーが点いていると目立つし、印象が変わる。
- ・扉の黄色の縦線があることで出入口がわかりやすくなり、デザイン的に良いかは置いといて、機能的には良い。
- ・タイヤスパッツ、横向きのカウンターテーブル、ぜひ実現してほしい。
- ・デジタルサイネージにバスの情報だけではなく防災情報などを流し、交通システムとしてだけでなく、市民が安心して生活を送るための情報を発信する場所へ。
- ・サイネージがバス待ち客から見て裏側に設置されると、バス接近情報が見えない。バス停に対して直角に情報が出ると皆が見られる。それが無理なら上部に掲げる。
- ・SRTの上屋は名古屋エリアで最も優れた乗降・待合空間になるし、1つの基盤になってくる。こういう優れたバス停が増えることで、バスへの不安がなくなるなど、わかりやすさに繋がっていく。
- ・乗降・待合空間のベンチについて、道に平行に置かずに30~45度傾けて、バスが走ってくるのがわかるようにする事で安心感に繋がるのではないか。
- ・デザインされた乗降・待合空間と既存のポラードが少しミスマッチ。せめて近い色に。
- ・バス停に停まるバスの時刻表は、1つの場所で一覧で確認できた方が良い。
- ・乗降口には、こういうふうに並んでほしいという事だったり、料金の事だったりなど、わかりやすい路面標示を。待っている人が見れば、SRTはこういう乗り物なんだなどすぐ理解できるようになっていると乗りやすい。
- ・車道とバス停の間に風・雨除けがあると、より安心して待てる。
- ・猛暑日が多く、これだけ暑い中でどのようにバスを待つのか、対応策が必要。
- ・名古屋はウォーカブルと言いながら歩行者に優しくない。バス停も多機能のようなことを考えると、休憩できるという事をもっと考えても良いのではないか。
- ・バス停の夜間の照明っていうのを少しグレードの高い照明を考えて頂くと良い。
- ・木の場所との関係で、この歩道の往来の方々が、どこを通るかっていうのを想定して頂きながら、バス待ちの列を考慮しながらベンチの位置、大きさ等々を考えて頂いた方が良い。
- ・SRTのロゴについて、金シャチの尻尾や全体像、鳥がとんでいる姿など、いろいろな見え方がして良い。
- ・SRTバスレーンについて、かなりハードルが高いことはわかっているが、実現していないといけない。

議題2 Smartらしさ、機能性について

- ・若者はインスタなどのSNSで情報や動画を見る。それを見た人たちが何だろうと調べた時にすぐ出てきて、乗りたくなるようなわかりやすい案内が必要。
- ・乗降・待合空間のベンチについて、バス待ち以外の人も休憩スペースとして使って良いということもあわせて広めていかないといけない。
- ・デビューする時はPRをしっかりとしてほしい。動画やパンフレット、ステッカーなどをどんどん出して、全国に知って頂くようになると良い。
- ・夜に特別に走らせて何か違った価値が提供できると良いと思う。
- ・「利用者行動に基づく体験と機能の整理」のチャートを違和感なく見られるのは、前提としてSRTを知っているからな気がする。
- ・SRTそのものを知らないで検索もされない。
- ・スマホを見なくて良い過ごし方。単なる移動ではなく、SRTで過ごす時間が特別な体験になるような、楽しみとか知性を享受できるような内容に。
- ・リピーターのことを考えると、コンテンツをどう回していくかも、しっかり進めていく必要がある。
- ・SRTの待合空間における広告に関しては、審査制にするとかハードルを上げられると良い。
- ・まちを賑わせるためには、ある意味、広告は必要なもの。
- ・歩いて広告を見るという状態の尺などを考えた広告が出されていくような基準は作っても良い気がする。
- ・同じものが見られるなら手元で見られるアプリで良いので、サイネージならではの工夫が必要。
- ・Cent Xについて、SRTタブだけでもすごく内容が充実しているなど、アプリを入れたいようなメリットや利便性が必要。
- ・Cent Xだけでなく、一般的に使われている乗換ナビのようなものでも見られるようになるとより良い。
- ・Ma a Sアプリやウェブサイトとの連動性を深め、他県から来る人や外国人が体験しやすい導き方が重視される。
- ・キャッシュレスやAR、VRの導入など実験を重ねて、何が最適なのか探っていけると。
- ・キャッシュレスはぜひ進めてほしい。ただし、マナカやクレジットカードを持っていない方がいるので、そこへの対応はしっかり考える必要がある。
- ・データは行政できちんと作りながら、それをどんどんオープンにしていく。
- ・GTF SとGTF S-R Tをとにかく整理して、オープンソースで挙げていく。
- ・ウォークアブルな空間ということで、その効果を計測するという意味でも人流データあるいは環境データを計測するというのもありだと思う。

- ・電子ペーパーのような省エネ型で、最新の技術を使いながら最低限のバス運行に関する情報を提供していく。
- ・上屋の屋根に透過型の太陽光を乗せることで電源も取れる。これに電子ペーパーやWi-Fiを提供することでEcoシステムとして出来上がり、スマートにも繋がるような気がする。
- ・専用レーンは難しいと思うが、少なくともPTPS公共交通優先信号は実現したかった。関係機関との調整も必要なのでまだまだ難しいと思っているが、真正面からスマートと言うためにはそういったものが必要。